

福 島県南会津地区は、会津若松市の西若松駅と南会津町の会津高原尾瀬口駅まで57.4kmを21駅で結んでいる会津鉄道沿線の市町村(下郷町・美里町・三島町・南会津町・檜枝岐村)を中心に広がっている。

同エリアへの首都圏からのアクセスは、この会津高原尾瀬口駅から東武鉄道鬼怒川温泉駅を経由し、浅草まで直通運転されている野岩鉄道により結ばれる。前回も紹介したように地方鉄道がおかれている状況は、地域の高齢化の進行と人口流出が止まらず、まさに旅客離れの悪循環に陥っている。存続はまさに流動旅客である観光客の利用促進を行う以外に手はない。しかし、この直通運転はおよそ20年近くが経過しているが、線路はつながったものの列車利用での観光客を誘致できる仕掛けづくりがほとんど行われておらず、当然のことながら同地域への観光客の落ち込みに歯止めがきかない状況になっていた。

そこで、東武特急スペーシアの大宮、池袋、新宿への乗り入れが実現した06年3月、このエリアへのトータル誘客プロデュースを依頼され、現在まで同地でさまざまな対策を打ってきた。

まず、下記6項目は後発で観光振興を目指す地域共通の課題として整理できる。①今まで観光素材として売り出してはいたもののそこまでの足がないままPRしている、②各観光素材も良い物ではあるが、荒削りで首都圏の旅慣れた旅行客を満足させる受け入れ体制が整備されていない、③鉄道会社や旅行会社と連携できるサービスレベルの宿泊・観光施設が少ない、④近隣市町村との観光連携がとれていない、⑤地域内での地域活性化を行う団体同士のお互いの活動内容が情報交換されずに横の連携がとれていない、⑥何とかしたいが、どうしてよいかわからない(地域にプロの観光地域プロデューサーがいない)、ことである。

同地区はまさにこれらの課題に直面しており、具体的な対策の一つひとつ打つことになった。幸いに

も同年、熱心でパワフルな結束で知られる会津若松市が中心に誘致したJR東日本のDC「極上の会津キャンペーン」が華々しく実施され、当時画期的な広域連携意識が南会津各市町村に構築されつつあった時期でもあった。

早速私は地元に入り、公聴会の開催や観光関連業界団体および各市町村長とも真剣勝負での対話を繰り返すうちに東武鉄道、野岩鉄道、会津鉄道を経由して首都圏(浅草、新宿、池袋、大宮)からの誘客のための整備を具現化しようとの動きに拍車がかかり、地元が共通目標に向けて一つにまとま

ってきたわけである。そして前述の課題を解決、発展させるための新しい協議会の発足にこぎつけた。

可能性のある旅館、民宿、観光施設の皆さんに協力を呼びかけたが、まず旅行会社に何で手数料を取られるのかといった質問やクーポン券精算の仕組み、商品への参加メリットなどを、酒を酌み交わしながら永遠と理解を求めたことも今ではよい思い出になっている。この甲斐もあり、現在では山村の民宿でも客室提供を進んで行ってもらえる信頼関係が構築でき、地域と駅を結ぶ送迎車の共同運行や、既存の観光素材を磨き直し

たうえ、これらの観光ポイントを2人から催行可能な観光乗り合いタクシーや周遊バスの運行も実現した。

さらには地元名物駅弁の開発や奥会津地方の郷土料理を昼食付きのツアーで市域資源を解説しながら見せるシステムも開発できた。土日曜・祝日には鬼怒川温泉駅から蔵とラーメンの街で知られる喜多方駅まで「会津マウントエクスプレス号」の直通運転を実施。シーズン中には会津のボランティアガイドのおばちゃんたちが列車に乗り込み、「南会津語り部列車」として運行し、車内で奥会津地方の民話を旅客に聞かせるなど、新幹線とは対照的にローカル鉄道の旅自体が旅行目的にできるよう数々の仕組みが完成しつつある。開発当時は100人足らずの年間宿泊者が、今では約2万人まで成長している。

地域活性化 伝道師が行く

文・篠原靖



観光客に人気の会津鉄道「お座敷展望列車」

vol.
13

2万人に増えた 南会津の宿泊客

しのはら・やすし ● 81年東武トラベル入社。05年から企画仕入部副部長として観光素材の発掘・旅行商品化を手掛ける。この実績から07年、内閣府地域活性化伝道師に任命。